

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 7月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492100031		
法人名	口和福祉会		
事業所名	グループホーム口和		
所在地	庄原市口和町永田413番地 (電話) 0824-89-2700		
自己評価作成日	令和元年6月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3492100031-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年7月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

元気で健康に生活を送って頂けるようにグループホーム口和では毎日の日課活動で散歩を実施しています。その日々の積み重ねが入居者の皆様の健康維持に繋がっています。お一人お一人の持っておられる力を活かして役割を分担し力を発揮して頂いています。「小さな気遣いが、大きな安心へ」の理念のもと入居者の皆様の思いや気づきを大切にしたい個別支援を行い安心して暮らせる日常を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取組みとして第一に「入浴を楽しむことができる支援」の深化がある。即ち、入浴に対する利用者の希望を尊重し、毎日入浴の実施を5月から開始した。利用者の三分の一の希望があり、職員からも一日6人の入浴は可能という意見を集約し実現に至った。「家にいた時と一緒にですよ」というメッセージの具現化で利用者も事業所での生活習慣を認識し、入浴拒否もなくその習慣を継続できるようになった。第二に「日常的な外出支援」の深化がある。即ち、「日課の散歩コースはご本人の体調と希望に沿って実施し」、「雨にも負けず、雪にも負けず」隣接法人施設も活用して歩みを重ねた。屋外散歩も農協での買い物や郵便局での投函等、目的のある散歩により「自立に向けた生活リハビリ」を実践した結果、2名が要介護2から1に改善・結実した。

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に なげている。	「小さな気遣いが大きな安心へ」の理 念のもとに入居者様お一人お一人の気 づきを大切に して会議や気づきノート で共有し介護計画を立てケアに取 組んでいる。	法人理念を事業所理念とし、それを事 業所内に掲示して実践上の立ち返るべ き原点にすると共に利用者の日常を大 切に、その言動を「気づきノート」等 で共有して理念の徹底を図っている。 管理者は職員が気づきを提案できるよ う促し、普段の実践を振り返る中で理 念の評価・検証を行っている。	新たな体制に即した理念の周知や実践 につき、より深く取り組み更なる向上 を期待したい。例えば理念の下に分り 易い具体的な年間行動計画を策定し、 定期的に達成度を評価して記録に残す 案等、評価の検証過程を「可視化」す ることで職員間の認識を共有し、理念 の深化・定着を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮ら し続けられるよう、事業所自体が地 域の一員として日常的に交流してい る。	地域の保育園と小学校の運動会やイベ ントへ参加したり、地域のお店で買い 物をして交流している。	日頃から散歩等で地域住民と挨拶を交 わしたり、盆祭り・モウモウ祭り等の 地域行事に利用者と参加したり、納涼 祭等の法人事事に地域住民やボラン ティアの受け入れ等、相互交流も行っ ている。又、地域の保育園や小学校の 行事に参加する世代間交流にも取り組 んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げて いる認知症の人の理解や支援の方法 を、地域の人々に向けて活かしてい る。	行政と連携し相談依頼があれば当該相 談者の自宅へ訪問しお話を聞き、相談 内容については行政に報告している。 またサロンや学校に出向き認知症サ ポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービ スの実際、評価への取組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこ での意見をサービス向上に活かして いる。	偶数月に運営推進会議を開催して入居 者状況や取組みについて報告し、欠 席の御家族には後日会議録を郵送して いる。頂いた意見は支援に活かしてい る。	会議は利用者、時に家族、民生委員、 口和支所職員等が参加し定期的に開催 されている。不参加家族に対しては議 事録を送付し運営状況の共有を図って いる。その意見交換の中から災害時の 避難行動について地域消防署所長から の助言が事業所の災害対策に繋がった 経緯がある。	不参加家族に対し議事録送付等の工夫 はあるが、家族他の参加は少なく活発 な意見交換の場とは言い難い。今後は 会議活性化のため、事業所行事との同 日開催や「事故・ヒヤリ報告」等、議 題の工夫や日時調整案等、できるだけ 多くの家族他の参加が得られる様、更 なる工夫を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取 り、事業所の実績やケアサービスの 取組みを積極的に伝えながら、協力 関係を築くように取組んでいる。	月1回開催される地域ケア会議に出席し て情報交換や関係機関との連携に努め ている。	運営推進会議には口和支所職員が参加 し情報共有をしている。職員が認知症 サポーター養成講座講師を務めたり、 行政主催の地域ケア会議や虐待研修会 に出席する等、連携強化に努めてい る。又、市グループホーム連絡協議会 が後援する市委託事業の認知症介護予 防講座にも参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待予防委員会による研修や3ヵ月に1度会議を行いケアを振り返り身体拘束に繋がらないようにしている。	内・外部研修等を通して職員は「拘束はしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。日中は玄関を施錠せず、玄関の開閉感知機器による見守り等で対応している。又、今回の制度改正に伴い、3ヵ月毎に身体拘束虐待予防委員会を開いて事例検討等を行い、拘束例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修に参加した職員が伝達研修を行い学び、自分たちのケアが虐待に繋がっていないか意識している。虐待に繋がるのではないかと疑われる事があればすぐに話し合い改善している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業を利用されている入居者を担当者と連携して支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	御家族の疑問や不安な点や心配な事をゆっくりしっかり聞いて分かりやすく丁寧に説明し納得を得れるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者ご本人からは日々の関わりの中で要望を伺い職員で検討後可能な事はケアプランに入れている。ご家族からは面会時や電話連絡時に尋ねて寄せられたご意見やご要望は会議で話し合い改善している。	家族とは面会時・介護計画見直し時・意見箱他で管理者や職員が把握する様に努めており、気づきノート等に残し職員間で共有している。家族からの質問をきっかけに当該利用者にとって紙パンツが必要なのか、考える契機となり、布パンツとパッドでの対応に移行した経緯がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の気づきや意見はその都度聞き、気づきノートや会議の場など提案出来る場を設けて話し合い改善している。	毎日の申し送りや不定期の職員会議等で意見交換をして運営に反映させている。管理者は日頃から職員と話す機会を設け介護方法・業務上の提案等に対する支援をしている。職員提案により季節を考慮した早朝散歩の実施や水分制限のある利用者に対し体重から算出した補給量を調整した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	家庭の事情に配慮した勤務や有休は希望休以外で取得出来るようにしている。外部研修希望の職員には積極的に参加してもらっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体として毎月テーマを決めて職員研修を実施している。外部研修への参加を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	庄原市グループホーム連絡協議会が実施する研修会に参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	しっかり対話をしてご本人の不安や心配な事、困り事や要望を聞いてその場で回答出来る事は説明して安心してもらえるようにして信頼関係構築に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	御家族と面談をして困り事や心配事、要望などをゆっくり丁寧に聞き思いを受け止めて信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームの現状で支援出来るかどうかを考えて、他のサービス利用が必要な場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	畑での野菜作り、花壇の手入れ、ホーム内の掃除、洗濯物を干したり取り込んだり畳んだり、食事作りやおやつ作り、配膳と下膳や洗い物など日常生活における必要なことを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話で普段の生活の様子をお伝えして最近の様子を知ってもらい、昔の様子を覚えてもらったりしながら関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	他施設に入所の家族への面会、買い物支援、かかりつけ医への通院支援、友人の方に面会に来て頂いたりしている。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしており、地域行事等で知人と挨拶を交わしたり、家族の協力も含め見舞いや墓参り等の外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。馴染みの主治医への受診や手紙・電話等の支援の例もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置や役割の分担、レクリエーションの内容など人間関係に配慮してトラブルにならないよう協力し合えるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	転居先施設と連携したり、御家族からの相談に応じたり情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での会話や表情や行動など暮らしの様子からご本人がどう思われながら生活されているか知るように努めている。	職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解する様努めている。その情報は気づきノート等に残し、職員間で共有している。例えば、風呂好きな方には毎日入浴してもらい、カープファンの方には試合のある日はテレビ観戦で応援する立案例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族、面会に来られる親戚や友人やご近所の方々からこれまでの様子を情報提供して頂き把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	独自の24時間シートを活用して1日の生活リズムを把握したり、職員が気付いた些細な変化や気づきは情報を共有して主治医と連携している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人の意向とご家族や主治医の意見を踏まえて24時間シートを活用して職員の意見やアイデアを介護計画に反映している。	24時間シート・家族の意向等を踏まえ計画作成担当者が原案を作成し、家族の面会時に計画を説明・同意を得て本案としている。職員によるモニタリングを作成担当者が集約し計画の見直しは基本半年毎に行う。様々な事をしたい利用者にその方にしかできない洗い物を分担して頂いた立案例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	お一人お一人のその日にあった事や気づきを記録に記入して職員は必ず目を通し現状を把握し、必要に応じてケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族からのニーズには会議でどうすれば出来るかを話し合い応えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ホーム周辺の地域の中を散歩、通院、買い物、地域のイベントに参加して繋がりを持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	それぞれのかかりつけ医や希望されるドクターと連携して通院援助を行っている。	利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医や専門医への受診は主に事業所の協力による。法人系列施設の看護師の支援により利用者の健康管理を行い、又散歩も兼ねて協力歯科医に受診している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設関連施設の看護師と連携して相談しながら適切な受診ができるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に状態を開いたり相談したりしながら退院後に備えるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合はご本人、家族、主治医と施設で話し合いを持ち適切な対応をすることになっている。	利用開始時、重度化に係る基本的な方針を説明し了解を得ている。「看取り」は行わないが、重度化した場合に備えて、入所・入院に向けた支援に取り組む方針である。又、重度化した際には指針に基づき、本人・家族・医師・職員と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	喉詰まりや嘔吐時の応急処置の実習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災避難訓練は年2回実施。他部署や地域からの協力体制を整えている。水害時の避難について地元消防署の方から話を伺い早めの避難と場所を職員全員で確認している。	消防署の立会いの下、地域の消防団・法人施設と合同で夜間想定や利用者も参加して定期的に避難訓練を行っている。運営推進会議で地域消防署所長からの助言が事業所の防災意識の強化に繋がった。又、災害時の非常食の備蓄等も隣接法人からの補完体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーや羞恥心に関わる話は人前で話さないでお部屋で話すようにしている。その場で話さないといけない場合は声量に気を付けて他入居者には聞こえないように配慮している。	法人・事業所での接遇研修等で職員の幅広い知識の習得を図る体制もある。排泄・入浴時等のプライバシーについても職員は利用者目線で対応し、職員相互で注意し合える関係性もある。介護職員としての経験値も高く、個人情報の保管体制や記録方法についても適切な配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	お一人お一人に応じて言葉かけをしながら思いや希望を会話からくみ取れるようしっかり傾聴もしている。自己決定が必要な時は選択肢が分かりやすいように話しかけて説明している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課は無理強いせずにご本人のペースとやりたいことを優先して過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪は切りたいと申し出があった時に美容師に連絡して来所してカットしてもらっている。自分で切る方には付き添って見守りをしている。化粧品が無くなった時はご家族に連絡をして購入して頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を実施して食事メニューやおやつに反映している。誕生日にはご本人のリクエストに応じて提供している。下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳、下膳、洗い物など役割分担して一緒に行っている。	当日の調理担当が献立を考え、3食手作りである。概ね半年毎に嗜好調査を行い、利用者の好みを反映させている。利用者は食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを職員と共に行っている。菜園野菜を献立に活かしたり、毎月の喫茶会や回転寿司・食事処等での外食も好評である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた食事作りや個別に1日に必要な水分量を摂取してもらっている。嚥下状態が悪い方にはトロミをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声かけをして歯磨きをしてもらい、義歯の方は夜間は外して洗浄剤につけて預かっている。異常がある時は歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	独自の24時間シートを活用して排泄の間隔や状態を把握してトイレ誘導や紙パンツ・パッド交換を行っている。	24時間シート等により各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導等をしている。状況により夜間のポータブルトイレ対応もある。排泄の自立支援として紙から布パンツへの移行や散歩等、自立に向けた生活リハビリがトイレ移動の安定に繋がっている。可動式手すり等、環境整備も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	起床時に水分補給して腸の刺激を促したり、散歩や体操など適度な運動を実施。主治医と連携して下剤の調整をしている。食物繊維を取り入れた食事や水分補給は個別量で提供して便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	希望者には毎日入浴を実施。湯の温度や入る順番、同性介助の希望に応じて支援している。	隔日の午後入浴が基本だが希望により毎日の入浴も可能で、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度・時間に対応する等、柔軟に関わっている。入浴は据え置き型家庭浴槽での個人浴であり、シャワーチェアや浴槽に出入りし易い手すりの工夫や冬至の柚子湯等で寛いでもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	昼寝の習慣がある方には短時間 で実施。快適に眠れるように室 温管理している。眠剤が必要な 方は主治医と連携して処方して もらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医、薬剤師、看護師と連 携して何の薬でどんな副作用が あるか把握し、変化がある時は 直ちに受診して医師の指示に従 っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お一人お一人の得意な事や好 きな事を活かした役割作りや毎 日入浴など家に居た頃の生活が 継続出来るような支援をしてい る。月1回の喫茶会や外食、ド ライブなど外出を行い気分転換 が出来るよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	日課の散歩コースはご本人の 体調と希望に沿って実施してい る。墓参り、外食、買い物など はご家族の協力を得て実施して いる。	日頃から希望により少人数で 近所の散歩や盆祭り・モウモウ 祭り等の地域行事で普段は行け ないような所へ外出し「非日常 」を楽しむこともある。又、花 見・紅葉狩り等に出かけ季節毎 の地域の移ろいを楽しんでいる。 家族の協力の下、他施設に入所 中の家族との面会や外食等に行 くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	かけはし利用の入居者の方が 必要な物や欲しい物を買いた い時に買えるように支援を行っ ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望に応じてご家族や親戚、友人への電話連絡の支援をしたり、書かれた手紙を投函出来るように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレや浴室の共有場所は表示している。壁紙や貼り絵はその折々の季節の物を作成してもらい飾っている。テーブルの向きを変えたり適温の湿度管理など心地よい環境作りを行っている。	共用空間は窓や中庭からの採光を得て明るい環境がある。玄関やフロアには利用者・職員が活けた花が飾られ、フロアにある利用者で作ったちぎり絵・塗り絵等の作品にも季節感が漂う。又、中庭の軒下に巣を作った2か所の燕の巣も2回目の雛の誕生を心待ちにする利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の人間関係に配慮した席の配置やテレビ観戦や読書、新聞を読んだり、談話出来るようにソファを設置して自由に座れる居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人が使っておられた布団・毛布・枕やテレビなどの持ち物を入居時に持参してもらい使用して頂いている。部屋の中はご本人が好きなものを飾ってもらい居心地の良い環境になるようにしている。	居室にはベッド・エアコン・タンスが備え付けられ、家で使い慣れた物や家族の写真・本人作の押し花塗り絵・カープ女子必需品等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。又、利用者によっては夜間排泄時の転倒防止のため、ポータブルトイレを設置することもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	動線上全てに手すりを設置している。浴室やトイレ、居室の入口に名前を表示している。皆さんの目につく所に大きな日めくりカレンダーを設置してめくってもらい今日が何月何日かわかるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム口和

作成日 令和元年8月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に御家族の参加が少ない。	御家族の皆様が参加しやすい運営推進会議を開催する。	関心を持ってもらえる議題・内容にする。	1年
2	1	職員個々の目標と評価。	具体的な目標に取り組み定期的に評価する。	職員個々に目標を立ててもらい半年に1回振り返り自己評価してもらう。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。